

出産は生まれてくる瞬間ばかりが大切なのではなく……

先日、(社)東京青年会議所江東委員会が主催された「KOTO 寺子屋」にて東陽中学校の1・2年生女子を対象として「出産」をテーマに話す機会がありました。

私が推奨する家庭出産の様子をスライドで紹介したのですが、参加した生徒さんの態度には正直驚きました。とても真剣で神妙なのです。

一つ一つの場面について息を呑んで見てくれ、胎教の重要性や母体の健康、中絶に関する話にも聞き入ってくれました。

出産は、胎児が生まれてくる瞬間ばかりが関心事になりがちですが、両親や家族が胎内の赤ちゃんに話しかけたり、お母さんのお腹に触れたりしてコミュニケーションをはかろうとする気持ちの積み重ねが大切であること。健全な胎児が宿るのは母体が健康であること。中絶は母体に対して精神的にも肉体的にも様々な悪影響が起こりうることなど、どこまで理解してくれたか分かりませんが、私は確かな手応えを感じました。

「今回は男子生徒にも聞かせたい」と指導主任の先生がおっしゃっていましたが、ぜひ実現できればと思います。それはいずれ訪れるであろう父親としての「我が子の出産」に対する正しい認識を持ってもらおうという観点からです。

父親が帰宅すると胎児は喜んで動きますし、逆子も父親の話しかけによって正常に戻ることはよくあります。また切迫早産気味の時も父親がお母さんのお腹に手を当てて胎児に話しかけるとお腹が張る症状が緩和されたりします。そして、何よりもお父さんが出産に対して協力的で積極的な場合はお産自体がスムーズです。

感受性が豊かで素直な中学時代に父性が如何に偉大で大切であるかをお話してあげられたら、どんなに自信が付き、将来健全な家庭を築けることにつながるか、微力ですがご協力できたらと思っています。